

市内外医療機関と連携

クリニカルPET 年間1600件超実施

鉏路市の鉏路孝仁会（仮記）原田英徳院長、23歳、赤松病院（齋藤孝次理事長）は、2台のPET-CT

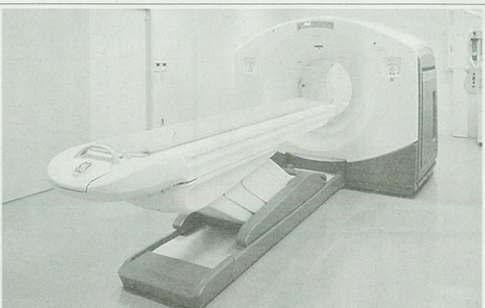
で、年間1600件以上12月からPET-CTを1台増設し2台体制としている。

市内外の医療機関と連携してがん治療のフォローを行っているほか、アンモニアPET、ガスPETなど活用の幅を広げている。

16年のクリニカルPETでは、肺がんが561件で最も多く、悪性リンパ腫（211件）、頭頸部Tセンサーを開設。併せがん（195件）、大腸がん（91件）と続いた。その後、順調に利用数が増えたため、12年

代謝状態が撮影に影響するPET検査では、糖のアンモニアPETは、心筋の血流量を正確に計測することで、心臓の状態を正確に把握し、狭心症や心筋梗塞、心筋症などの有無やその程度を診断できる。使用する薬剤の半減期が非常に短いため、同病院のようにサイクロトロンを備え、自前製剤をきまければ、難しい。

同病院は、2007年12月に新設された際、鉏路地域で初めてPET-CT装置を導入してPETセンサーを開設。併せがん（195件）、大腸がん（91件）と続いた。その後、順調に利用数が増えたため、12年



PET-CTは2台体制

る。同センターでは、不との連携を強化し、検査明瞭な点がああ場合、積からクリニカルまでPETの幅広い活用で地域にうちに行っていることが買取られていく考えだ。

同センターは、PETも備え、医師が常時3人体制としているほか、放射線技師、看護師、事務スタッフからも配置。看護師が患者の呼吸や再検査等にも柔軟に対応し、検査順を調整することで、1日14、15人に対応可能という。

クリニカルPETは、月々木曜日の4日間、金曜日は予備日、アンモニアPET、ガスPETに当てている。

アンモニアPETは、心筋の血流量を正確に計測することで、心臓の状態を正確に把握し、狭心症や心筋梗塞、心筋症などの有無やその程度を診断できる。使用する薬剤の半減期が非常に短いため、同病院のようにサイクロトロンを備え、自前製剤をきまければ、難しい。

一方、ガスPETは、O2ガスを吸入した脳循環代謝検査で、脳血流、酸素代謝率、酸炭素取り率、脳血液量などを測定して脳循環障害の重症度評価などを行っている。

同病院では、PETを使い、総合がんドックや3大疾病ドックなど多彩な検査メニューをそろえている。地域の医療機関